



旭川市出身のジャーナリスト、金平茂紀さんによる記念講演が11月3日に北大構内の学術交流会館にて開催されました。約2時間に渡って戦後の価値である民主主義や不戦の誓いの危機的な現状を述べられました。

金平さんはタレントのタモリさんの発言である「新しい戦前」について、社会の雰囲気や戦前になつていく状況の分岐点が2022年にあると指摘しました。「パンドラの箱が開いた」と述べ、ウクライナでの戦争や安倍元首相銃撃など、



「新しい戦前のなかに」 私たちは、どのように正気を保つか？

正義や和平に対する考え方が根本から問われる状況となつたと話しました。かつて戦前において、ラジオなどのマスメディアが「戦争準備やむなし」からあつたという間に戦争賛美へと転がっていったことが再現されるのではないかと、あらゆる自由が奪われていくのではないかと、教育が選別の手段となつて「戦後の終わり」が今まさに到来するのではないかと訴えました。ミュージシャンの忌野清志郎さんが生前「なんでこんなに言いたいことが言えない国になつたか」と語り、奇しくも今年の3月に亡くなつた戦後思想を体現する作家の大江健三郎さんと作曲家の坂本龍一さんにまつわるエピソードを披露しつつ、戦争で利益を得る人が「新しい戦前」を始めようと画策していることを指摘。戦前回帰への抵抗のためには、理性や言葉の力が重要であることを強く主張しました。

第23回全国障害児学級&学校 学習交流集会in愛知

日時：2024年1月6日(土)～7日(日)
 ☆1月6日(土) 13:00~16:30 全体会 OL 配信
 ◎記念講演：竹沢清さん(元愛知県ろう学校教員)
 「子どもの悩み・願いに会って、私たちは教師になっていく」—実践と運動を通して語る—
 竹沢清さんの話から、子どもの見方・働きかけはもちろん、学校・社会のありようも学ぶことができるでしょう。厳しい教育現場で「教師が教師であり続けるための活力」が、きっとあなたにも湧いてくるはず。竹沢清さんの元気の源は「実践に裏づけられた勇気」です。

☆1月7日(日)
 ◎てんこ盛り講座 9:30～11:30
 ◎基礎講座 13:00～16:00
 ◎旬の実践分科会 13:00～16:30
 いずれの企画もオンライン参加できます。
 (詳細はチラシをご覧ください)

☆参加費：2000円 1日のみの参加は1000円
 ☆申込み：右QRコードからキャリアメール以外で登録ください。
 ☆申込〆切日：12月15日(金)

初めの「レポート参加 合同教研」に参加して

合同教育研究全道大会の分科会に参加しました。大分科会にも参加したことがありましたが、実際に自分のレポートを発表したのは初めての経験でした。今回のレポートは、自分が教師を目指した理由とこれから目指す教師像を見つめ直しながら作成しました。忙しい毎日の中で、今日の夕スクをなんとかこなしてい

くことに追われていると、「自分はなぜ教師を目指すようになったのか」という自分の原点を忘れがちになつていたことに気がつきました。私は、私がこれまでの人生で出会った人、経験したこと、感じたこと、願ったことがあったからこそ、教師としてありたいと思つたことを思い出すことができました。

また、レポート発表をしたことで、これまで関わりが全く無かった先輩教師の方々から感想や質問を頂くことができました。それがとても嬉しかったです。書店で買った本や教科書を読んで1人で学ぶことでは決して得られない、学びがありました。レポートを書き、発表し、誰かに聞いてもらい、沢山の意見をもらうという経験は、とてつもなく貴重な学びになるのだと知ることができました。この経験をさせてもらったことに感謝しながら、今回の学びを生かし、また挑戦してみたいです。

特別支援学校新採用教諭



「トゥレップン」からは名刺をもらったよ??

札幌支部「うごく支部教研」は、ウボポイ(民族共生象徴空間)見学・体験ツアーに参加しました。事前に、高校生の参加もOKということでしたので、高校生の「仲間」とともにワクワクしながら参加しました(なんとといっても、移動は貸切バス 入場自己負担なし 豪華お弁当の風食付ですから)。

土曜日は休日、時間があるかといえそうですが、いろいろな仕事を積み残しての参加の予定でしたが、「ウボポイに行く！」という気持ちで励みになり、ワッシャワッシャと仕事を事前にこなせました。人間、「励み」というものは大事ですね、パワーが出ます(「土気」ともいうのかもしれない)。

待望の当日、高校センターに行く、数名の方がすでに集まっています。時間になつても人は増えませんが、「まさか・・・」。バスは出発します。さみしい出発です。札幌駅に着くと、ようやく人が乗ってきました。満席とはいかないまでも、にぎやかな程度の参加者数となりました。

高校生を連れ立っている人は私だけです。ただ高校生といつても、今年20歳になる立派な大人です。ウボポイは2度目という高校生。「こういうのには参加したことがあるの」と聞くと、「中学生のころ長崎の原水

爆禁止世界大会に参加しました」とのこと。ベテランさんです。「行くたびに、勉強になって、知ることがあります」と言います。それを聞いてなぜか反省する56歳。

バスの中では、参加者一人一人の自己紹介。今年新採用の先生もいます。ベテラン中のベテランの先生もいます。教員あるあるですが、「自己紹介といっても、30秒程度じゃ終わります。リレートークで時間を忘れて過ごしているうちに、ウボポイに到着。ウボポイでは、団体鑑賞の時間以外は自由時間です。

豪華弁当を頂き、自由見学しました。特に印象に残ったのは、アイ又の昔話の語り部のお話です。昔話を語った後、「私はアイ又の家系に生まれましたが、言葉は話せなかったのです。こういう取り組みがあると、祖母は小さいころ、日本人になれ、日本人になれ、と育てられたそうで、アイ又の言葉は外では話さないように、と言われてい

たそうです。」という、自分のルーツについて話していたことです。公共施設という枠の中で、「アイ又の人々が歩んできた歴史をどうにかして伝えたい」という思いを感じました。

帰りのバスは、1日を振り返って、ひとりひとりが感じたこと、考えたことを出し合い「対話的で深い学び」の時間となりました。私たちの周りには知っていない、知らないことがたくさんあります。「歴史を知って、そこからどうするか、知ったものの責任」について語った高校生。

日常から離れて、組合の仲間と貸切バスで過ごした一日。あれもしなきゃならない、これもしてない、と日々追われる日常の中で、だが、無理して参加してもおつりがくるくらい、リフレッシュでき、元気が出る一日でした。またこういう機会があったら、もっと参加したいと思えます。

土岐剛史(有朋)



動く支部教研2023 札幌支部教研に参加しました!

残しての参加の予定でしたが、「ウボポイに行く！」という気持ちで励みになり、ワッシャワッシャと仕事を事前にこなせました。人間、「励み」というものは大事ですね、パワーが出ます(「土気」ともいうのかもしれない)。

待望の当日、高校センターに行く、数名の方がすでに集まっています。時間になつても人は増えませんが、「まさか・・・」。バスは出発します。さみしい出発です。札幌駅に着くと、ようやく人が乗ってきました。満席とはいかないまでも、にぎやかな程度の参加者数となりました。

高校生を連れ立っている人は私だけです。ただ高校生といつても、今年20歳になる立派な大人です。ウボポイは2度目という高校生。「こういうのには参加したことがあるの」と聞くと、「中学生のころ長崎の原水

爆禁止世界大会に参加しました」とのこと。ベテランさんです。「行くたびに、勉強になって、知ることがあります」と言います。それを聞いてなぜか反省する56歳。

バスの中では、参加者一人一人の自己紹介。今年新採用の先生もいます。ベテラン中のベテランの先生もいます。教員あるあるですが、「自己紹介といっても、30秒程度じゃ終わります。リレートークで時間を忘れて過ごしているうちに、ウボポイに到着。ウボポイでは、団体鑑賞の時間以外は自由時間です。

豪華弁当を頂き、自由見学しました。特に印象に残ったのは、アイ又の昔話の語り部のお話です。昔話を語った後、「私はアイ又の家系に生まれましたが、言葉は話せなかったのです。こういう取り組みがあると、祖母は小さいころ、日本人になれ、日本人になれ、と育てられたそうで、アイ又の言葉は外では話さないように、と言われてい